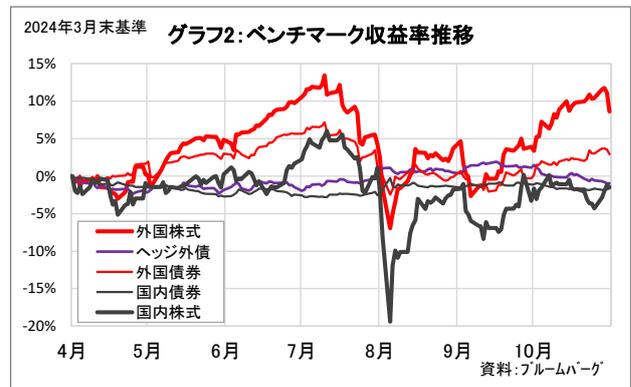
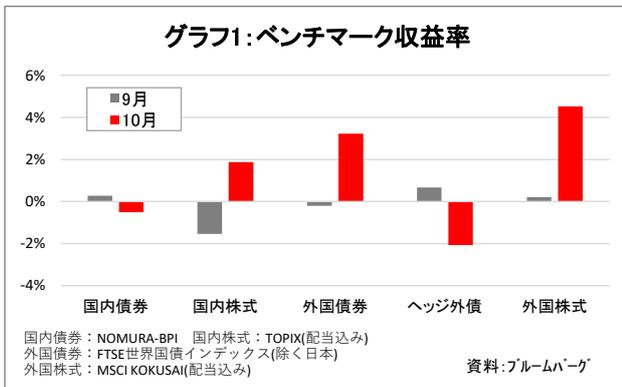


## 10月の市場動向と11月の注目点

### 1. ベンチマークの推移 ～国内株式、外貨資産がプラスに

国内株式は月末にかけて上昇し10月の収益率は2%弱のプラス、年度のマイナス幅は1%台半ばまで縮小しました。外国株式は現地通貨ベースでは欧米ともやや下げたものの、円安に後押しされ月間では4%台のプラス、年度の収益率は8%台まで拡大しました。

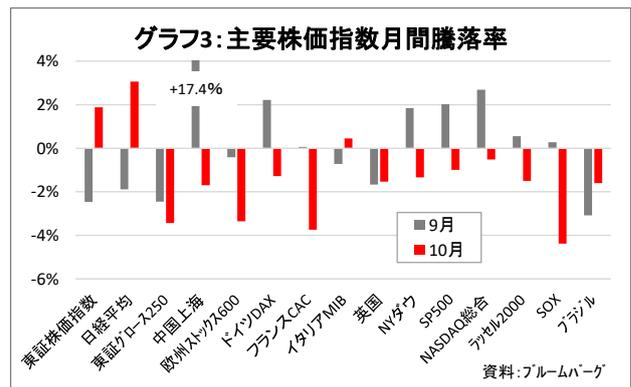
国内債券は長期金利がやや上昇し小幅の下落、年度のマイナス幅は1%台半ばとなりました。外国債券は欧米とも長期金利が上昇しましたが、円安に支えられ3%あまり上昇、年度では3%程度のプラスとなりました。一方でヘッジ外債は2%程度下落し、年度でも1%程度のマイナスに転じました。



### 2. 各市場の動き

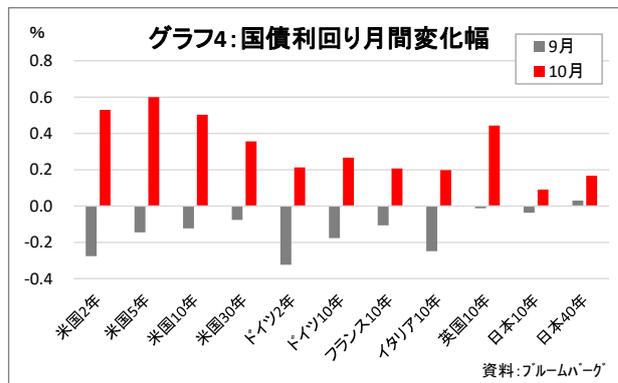
#### ① 内外株式～日本株は反発、欧米は下落

日本株は衆院選挙を控え頭の重い展開が続きましたが、選挙後は上昇しプラスで終わりました。与党の過半数割れは逆風という見方が強かったものの、財政拡張への期待や利上げ後ずれ観測、及び円安が後押ししたとみられます。中国上海は9月の急騰の後反落、欧州は下落、米国主要3指数は小幅安、一方で半導体(SOX)指数は大きく下落しました。



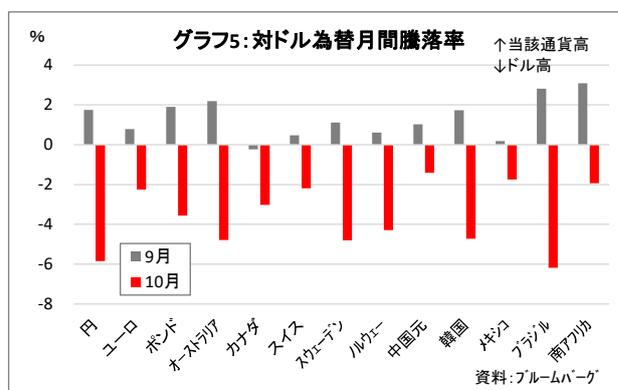
## ② 内外債券（長期金利）～米国を中心に長期金利が上昇

米国では月初に発表された雇用統計等、堅調な経済指標が続いたことから利下げ期待が徐々に後退し、米国債利回りは短期ゾーンを中心に上昇しました。またトランプ候補優勢という見方が広がり減税等による財政赤字拡大懸念も押し上げ材料となりました。ユーロ圏でも予想を上回る経済指標がみられ長期金利は小幅上昇、英国では拡張的な予算案が嫌気され長期金利は大幅に上昇しました。日本も小幅ながら上昇しました。



## ③ 為替 ～ドル高

米国金利の上昇を背景にドルがほぼ全面高となりました。なかでも円安が加速し一時7月末以来となる153円を記録しました。ユーロも小幅に下落、その他の欧州通貨や資源国、新興国通貨もドルに対し値を下げました。



## 3. 10月の主な出来事

### ① 金融政策関連.

欧州中銀は市場の予想通り17日の会合で0.25%の利下げを決定、9月に続き2会合連続の利下げとなります。物価が落ち着きを見せ始める一方で景気減速懸念が徐々に高まるなか、ラガルド総裁は下方リスクを強調しました。日本銀行は31日に政策金利の据え置きを発表、ただし植田総裁は記者会見でこれまで繰り返してきた「(追加利上げに)時間的余裕はある」との表現を今後は使用しないと声明し、次回、もしくは来年1月会合での利上げに含みを持たせました。カナダ中銀は「コロナ後の高インフレ時代は終わった」として0.5%の大幅利下げに動きました。

### ② 石破政権発足と衆院選挙で与党が惨敗

10月1日に発足した石破政権は早くも9日に議会を解散し、27日の投票日に向けての選挙戦が始まりました。政治資金問題に対する国民の批判は収まらず、一部議員を非公認、比例重複を認めない等、厳しい姿勢を打ち出したものの「追い込まれ感」が強く支持率は低下し金融市場でも先行き不安が高まりました。結果として与党は大敗しましたが、「手取りを増やす」を掲げた国民民主党がキャスティング・ボートを握ることになり、財政拡張への期待から株価は上昇しました。

---

### ③ その他

イランの攻撃に対する報復処置として、イスラエル軍がイランの石油施設を攻撃するのではないかという懸念が高まり原油価格が一時上昇しました。しかしとりあえず軍事施設に限定されたことから反落しました。

北朝鮮が自国兵士をロシアに派遣したと報じられました。ウクライナ戦線のみならず東アジアの地政学リスクも高まっています。

## 4. 11月の注目点

### ① 米国大統領選挙

2024年は選挙の年となりましたが、11月5日投票の米国大統領選挙が最大のイベントとなります。現在のところ支持率は拮抗しており全く予断を許さない状況です。接戦州で両候補の得票数が僅差の場合、結果の判明が大幅に後ずれすることも想定されます。同時に行われる上下両院議会選挙にも注目です。

### ② 衆院選挙後の石破政権

11日に首班指名選挙が行われる模様で決選投票の末、石破首相が選出されるとみられます。ただし少数与党となり政策ごとに国民民主党等の協力を得ることになりそうです。またこれまで与党の裁量で選出されていた議長や各委員長人事での紛糾も否定はできません。状況次第では金融市場に影響を及ぼすことも考えられます。

### ③ 金融政策決定会合

7日に米国と英国が金融政策決定会合を開催します。いずれも0.25%の利下げが見込まれていますが、市場は今後の方針についての手掛かりを注意深く探すと思われます。

### ④ その他

15日からペルーでAPEC首脳会議、18日からブラジルでG20首脳会議が予定されています。米中対立、ウクライナ、中東等、問題が山積みで各首脳の発言に注目したいと思います。

本レポートは筆者の個人的見方であり弊社の公式見解ではありません。

債券運用第一部シニアストラテジスト 菊池 宏

※ 2024年8月以降のレポート

- 8月 1日号 7月の市場動向と8月の注目点
- 8月 5日号 内外株の急落と円高について
- 9月 2日号 8月の市場動向と9月の注目点
- 9月12日号 日本株には3方面から逆風が
- 9月27日号 米国選挙情勢と金融市場への影響
- 10月 1日号 9月の市場動向と10月の注目点
- 10月 8日号 2024年度第2四半期の市場動向と今後の注目点

三菱UFJアセットマネジメント株式会社

登録番号 金融商品取引業者  
関東財務局長（金商） 第404号

一般社団法人日本投資顧問業協会会員  
一般社団法人投資信託協会会員

〒105-7320 東京都港区東新橋一丁目9番1号  
電話 03 - 4223 - 3134

\*本資料に含まれている経済見通しや市場環境予測はあくまでも作成時点における弊社ストラテジストの見解に基づくもので、今後予告なしに変更されることがあり、また弊社商品における運用方針と見解が異なることがあります。

\*本資料は情報提供を唯一の目的としており、何らかの行動ないし判断をするものではありません。また、掲載されている予測は、本資料の分析結果のみをもとに行われたものであり、予測の妥当性や確実性が保証されるものでもありません。予測は常に不確実性を伴います。本資料の予測・分析の妥当性等は、独自にご判断ください。

\*なお、資料中の図表は、断りのない限りブルームバーグ収録データをもとに作成しております。